

第5号

発行日 平成30年7月26日

発行元 三次市建設部都市建築課



尾関山ファンクラブ通信

会員数 101名
(H30.7.26現在)

桜に感謝の気持ちを込めて —第3回尾関山ファンクラブ作業実施—

7月6日から数日続いた豪雨により市内各地で浸水被害等の災害がありました。また梅雨が明けたとたん晴天が続き、熱中症に注意するよう連日テレビなどで放送されていますが、みなさまお変わりございませんでしょうか。

さて、去る6月30日(土)は3回目となります尾関山ファンクラブ作業を行いました。関東地方はその前日に梅雨明けしたというのに、三次は当日朝からあいにくの雨模様で、作業のお知らせをしていたものの、作業自体実施できるのだろうかといったような状況でした。そのような状況でも、なんと12名もの会員のみなさまにお集まりいただき、作業を行うことができました。途中雨が強く降ったりする中ではありましたが、その雨を気にすることもなく黙々と感謝の念を込めながら作業を進め、2時間程度で約30本の桜の木の手当ができました。来年はきっと今年より元気に生き生きとした桜が見られると思います。

ステージ広場の向かい側、枝垂桜の後ろ側にある、中村憲吉の歌碑「この山の 桜に向かひ 流れくる川広くして 水のひかれる」景色の再現を目指して、引き続きがんばっていきましょう。



「大好き尾関山！！ ～尾関山公園サクラ等植生管理計画～」のホームページができました！

三次市役所ホームページ内に尾関山公園サクラ等植生管理計画に関するページを作成しました。

同計画の概要や、尾関山の歴史についても簡単ですが説明しています。

また、尾関山ファンクラブの活動紹介や、このファンクラブ通信のバックナンバーも掲載していますので、ぜひともご覧ください(市役所HP → [産業・仕事](#) → [都市計画](#) → [尾関山公園サクラ等植生管理計画](#) からご覧になれます)

桜Photo (H30.6.30 (土))



アジサイなどの植生についても、樹木医の正本先生からクイズを交えながら説明いただきました。

昨年度の作業で罹病枝の切除や施肥を行った江の川沿いの桜土手で生育状況の説明を受けました。



1本の桜の周辺に深さ20cm程度の穴をあけ、地中に空気を入れ地盤を柔らかくするエアレーションという作業をみずえ緑地の作業員の方々に行っていた。その開いた穴へ肥料を入れ、炭と腐葉土を混ぜた土を被せて踏み固めるといった作業を、会員のみなさんでそれぞれ手分けして行いました。

左側の桜を伐採・剪定することで、枝垂桜の枝を左側に張り出させる。



現在の状況



将来イメージ



当日午前中には、ステージ前広場の向かい側にある枝垂桜の周りの剪定を正本先生に行ってくださいました。枝垂桜の隣の桜の枝が枝垂桜側に張り出してきているため、枝垂桜の枝が窮屈になって右側にしか枝が広がらなくなっていました。1本1本の桜が元気に育つためには適正な植樹間隔が必要だということが改めてよくわかりました。